

一関市観光振興計画（案）に対するご意見の概要及びご意見に対する市の考え方

8件：5人

No.	該当項目等	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
1	-	市内の主要な観光地の空撮動画やビデオ・カメラによる動画を作成し、それをホームページに動画として掲載し、広く全国、世界の皆さんに鑑賞可能な形で紹介する。 動画はその場に立った臨場感があって、実際に出演してみたいと感じるでしょう。選ばれる観光地によりシフトできると考えます。	一関市観光公式サイト「いち旅！」で一関の観光の魅力を映像で紹介しています。 「観光の目的が多様化し、観光客のニーズに対応した観光情報の提供が求められていることから、SNS、パンフレット、TV、新聞、情報誌、プロモーション動画等、多彩なツールを活用し情報発信に努めます。」と計画に掲載し、引き続き動画等を活用した効果的な情報発信を行ってまいります。
2	-	一関市と三陸沿岸を結ぶ大船渡線は、その形から「ドラゴンレール」の愛称で人気があります。そのドラゴンレールが開業100年を迎えるとのこと。 100年というのは、大きな意味があるし一度しかない。大きなイベントとして周辺の観光地も巻き込み、活性化させていく大きなチャンスととらえることが出来ると思います。 どうしても、歴史ある平泉地域や温泉郷の方に偏りがちな現計画は理解はできますが、大船渡線沿線方面にもある多彩な観光にも、もっとスポットを当ててほしいと思います。	大船渡線は、通勤・通学などのほか、市内観光地への移動手段としても利用されています。 大船渡線を活用したイベントについては、参考にさせていただきます。
3	P 29	前総合計画後期基本計画では、平成22年の現状227万回に対し27年の目標234万回とした。現総合計画前期基本計画では令和2年の目標を230万回とした。平成30年262万回で令和2年の目標230万回を達成したと報告された。その訳は、道の駅むろねの開業やさまざまなイベント集客が増加したためとされており、道の駅の集客数が含まれていると説明があった。 後期基本計画では令和元年の現状221万回に対して令和7年の目標が221万回と現状維持になっていて、観光振興計画目標も令和8年度221万回になっている。コロナ感染症により激減した入込数を回復させることが目標との事だが、感染症がそれほど長期間継続するとは思えない。この間に渋民に道の駅が開業すると思われるが、ここへの入込数は集計に含まれないということなのか。 立派に練られた計画書でありながら、目標値については雑な扱われ方だと思う。再考いただき、根拠を持ったものにして頂きたい。	新型コロナウイルス感染症の影響がどの程度続くか不透明なことから、指標については、必要に応じ、修正することも検討します。
4	-	「西暦（元号）」の表記を統一していただきたい。	統一した表現といたします。
5	-	ぜひ多くの市民に見ていただくためにも観光振興計画の『ダイジェスト版』を作成していただきたい。	概要版を作成いたします。
6	-	第4章「観光振興戦略」の、各項目にあげられている「重点的取り組み」の具体的内容をもっと明確にしてください。	「重点的取り組み」については、計画の中では、具体的内容、事業を掲げるというよりも考え方をお示ししています。 重点的取り組みに基づく具体的内容や事業については、毎年度開催する観光審議会でお示しし、委員からご意見をいただき、必要に応じて見直しすることを想定しております。
7	-	この5年間の「節目」となる時・ものを見据え、長期的計画を考えていただきたい。	今後5年間では、「新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた観光施策」を基本方針として事業の展開を図ることとしています。
8	-	・予算を使う際は、単発的なイベントに多額の費用を掛けるのではなく、継続的に効果のあるもの、例えば青森の奥入瀬溪流の様に、厳美に散策出来る周回路などを整備し、長時間滞在出来る様にするなどに使ってほしい。 ・厳美溪と梶鼻溪はセット、定期バスの運行、宿泊を含めたパック商品、平泉に頼り過ぎない魅力作りは必要。 ・もっと、民間と連携すべき ・盛岡、花巻に比べ宿泊施設など、地元民の利用が少ない、地元利用の施策、魅力作りが必要、ひいては地域外へのアピールになる。 ・一ノ関駅前、休憩する場所、時間を潰す場所がない。東口、NECとのセットの検討も必要。	具体的な事業を検討する場合、参考とさせていただきます。